



坤輿圖識補

ル 2  
1105  
1



門居  
號 1105  
卷 1-4

弘化三年丙午鐫

# 坤輿圖識補

全四冊

美作郎

夢霞樓藏



坤輿圖識補序

古者。聖王治天下。有九經。而柔遠人。居其一。於是置職方之官。掌天下地圖。以周知四方之利害。有象寄鞮譯之設。以通四方之言。達四方之志。其所以待外國者。若是其勤矣。後世支那君臣。不知遵奉之。恃其富盛。概視外國為異類。不挂之齒牙。或紀載之。

坤輿圖識補序

夢霞樓藏

若夢若寤。荒唐不經。將安取信焉。及至近世。西北強虜。狡焉啓疆。駸駸乎殆成剝牀之勢。亦猶恬然不爲意。漠然無所問也。是以一旦遭尹夷之變。狼狽失措。防禦不中機宜。屢致敗衄。纔以和議了局。嗚呼。堂堂大國。以中華自處。而遇平生視爲禽獸者。至卑辭厚賂。苟以自免。傳笑於四方。豈非

可歎之甚耶。是無他故也。驕傲自尊。不以外事爲恤。以至於此耳。兵法云。知彼知己。百戰不殆。嚮者。使支那人勤求外事。審知彼之情。則不至激變於廣東。以釀兵禍。使審知彼之俗。則不至僨事於舟山。一縣焦土。使審知彼之長短虛實。則不至浙東諸城不守。江南諸戰不競。唯其輕蔑外國之

甚。殆寘之於弗問矣。故彼之情狀技倆。並有所不悉。臨事蹉跌。以取大恥。乃知象寄鞮譯之設。不可忽略。而地志圖經之作。尤爲切要急務也。津山箕作玉海承父業。執象胥之技。研覈泰西地理之學。嚮者著輿地圖及圖識五卷。上梓公世而猶有所遺。乃拾補之。又成四卷。將復刻之。索序於余。

余以爲方今我邦全盛無事。不容有所過慮。然未雨之綢繆。爲古之善政。前車之覆。後車不可不戒。然則玉海之著。亦不可不謂當務之急。而官府累准其請。使刊行之。蓋遵古聖王之遺意者歟。是書之出。任邊疆之責者。資而考之。以審外國形勢情狀。庶幾無臨事蹉跌之患。則吾儕小人

可高枕而寢矣。

弘化三年。龍集柔兆敦牂。六月念五日。

津藩督學 齋藤正謙撰

余以為古今中外無事不容

坤輿圖識補採用西書目

ニウ空ンホイス 子ーデルランマガセイ  
ハシデルペール 五ツケース ブロイニング  
ルウランスズラン ノルキワールヂフヘイド  
カムペン 以上八種

附言

一此書專收錄本篇所遺國土及各地之沿革形勢風俗等其與本篇所舉大同小異者不復錄若夫輓近西人所著地圖中有邦土之名稱疆界與從前所舉不合而乏記載其變革之地誌者譬之猶渡頭失船徒羨望彼

岸光景之一斑而止耳。

一本編中處處舉人物之姓名而不錄其功業履歷故今鈔家嚴所翻西史外傳中附此書之卷末以補本篇之闕遺若欲知其詳宜就外傳覽焉

一余之繙此書至卷二之半俄然咯血紅雲染稿卷三初則血縷中拈來未暇再校者最覺紕繆蕪陋然余天資卞急意在獨成不欲倚人以成事是以每宿痾小緩輒起脩舊業終至完成部帙余意中之喜可知矣若夫紕繆蕪陋至寒去暄來之交宿痾不復發幸得一綫之生路又將加校正改刪焉

弘化丙午之晚秋念六夜箕作省吾識於夢霞樓南窻病蓐上

目錄

卷一

輿地總說 蒸發氣 水原 河川 大海 大山  
火脈 地震 山脈 冰山 沙漠 島嶼 港島  
風 熱國 寒國 世界高山表

卷二 亞細亞誌補

漢土 北京廣東 前印度 獨立諸國 英吉利所領地  
媽港 香港 加非爾斯當 百爾西亞 亞刺比亞  
獨立韃靼

同 米利幹誌補

閣龍比亞 一名加辣納太

知里 共和政治州 海軍

卷三 歐邏巴誌補

歐邏巴總說 各國人員表

都爾格 海岸諸寨柵

獨逸連合諸州總說 各國人員口數表

魯西亞 陸軍表

佛蘭西 陸軍表

英吉利 陸軍表

外蕃旗譜

卷四 本編中所收人物略傳

歷山王

亞理斯得

俄羅斯帝伯德球初世

勃那拔爾的

附歸葬佛國儀式

坤輿圖識補卷一

美作 箕作寬省吾 著

坤輿地總說

大地ノ物タル其形渾圓ニ又極メテ浩大ニ其周圍何  
ノ地ヲ問ハズ悉ク人物栖止シ草木繁茂スベシ但其  
形圓球ノ如キヲ以テ此地方ヨリ彼ノ地方ノ人ヲ論  
ズル片ハ或ハ下低ノ所ニアリ之ヲ足版相對スル國  
ト云フ寬按ニ支那國ニ足版相對スル國ハ然レモ彼  
地ヨリ此地ヲ見ル片ハ又同ジク下低ノ所ニアル  
尚此ヨリ彼ヲ見ル方如シ是ヲ以テ相互ニ己レノ栖

止スル所ヲ以テ、高處トナシ、其頭上ニ戴ク所ヲ以テ、  
 天トナス、互ニ殊ナルトナシ、又地球ニ引カアリテ、  
 百物ヲ地上ニ引ク、足對ノ地方トイヘ、我ニ殊ナ  
 ルトナシ、是萬物地ニ向テ、落ザルハナキ所以ナリ、  
 第一ニ、東西南北ヲ問ハズ、何レヨリ來ル所ノ船モ、先ヅ  
 第一ニ、遙ニ其橋上ヲ見、漸ク近ヅク、舟形旗號  
 ヲ辨シ、後ニハ船腹ヲ見ルニ至ル、是細  
 事ニテ、地球ノ圓形ヲ證スルニ足レリ、  
 地球ノ周圍ヲ測量スルニ、其里程、五千四百里アリ、其  
 平面ハ、九百萬箇里方積、其重厚ハ、二十六億五千九百  
 萬箇ノ里方積タリ、此處ニテ稱スル里數ハ、口インラ  
一里ト定タルモノナリ、其一尺、其中三分ノ一ハ、大地  
ハ、即チ我一尺零三三五ニ丁ル

ニメ、二分ハ、即チ大洋ナリ、其一分大地上ニ住ム人、  
 算スルハ、殆ンド十億ニ及フベシ、  
 全地球ヲ分ツハ、亞細亞洲ハ、十四分ノ一ニ居リ、歐  
 羅巴洲ハ、五十四分ノ一ニ居リ、亞弗利加洲ハ、十七分  
 ノ一、兩亞墨利加、合メ十六分ノ一ニ居ルト云、  
 地球ハ、原ト暗體ナレ、太陽ニ面スル部ハ、其光線ヲ  
 受テ、白晝トナリ、又暖氣ヲ生ズ、然レ、地球自轉ノ勢  
 比ニテ、太陽ニ反スルハ、暗黒トナリ、又冷涼トナル、  
 但此地方ハ、斯ノ如ク、太陽ニ反キ、暗夜トナル時ハ、其  
 足版相對スル諸州ハ、卻テ白晝トナリ、暖氣ヲ受ル、



尚我初ノ太陽ニ對セシキニ殊ナルヲナシ、是即チ彼  
ノ晝ハ、我ノ夜、我ノ晝ハ、彼ノ夜トナル所以ナリ、新製  
與地  
全圖凡例ニ  
併セ考ベシ

地球、太陽ノ周圍ヲ旋繞スルニ、常道アリ、此ヲ本輪ト  
云、地球東ニ向テ、其本輪ヲ運轉シ、止マサルヲ晝、夜舒  
速アルヲナシ、然レモ、其本輪ノ形、橢圓ナルヲ以テ、三  
百六十五日、五小時、即我ニ  
時半四十九分ノ時間ヲ經過ス  
ルキハ、其原所ニ廻歸ス、是即チ我ノ一年ナリ、  
地球ノ運轉スル、本輪、橢圓ナルヲ以テ、其處ニ依リテ、  
太陽ト地球ノ距離ニ、甚ダ遠近ノ差ヲ生ズ、然レモ、太

陽ヨリ、直線ニ地球上ヲ返射スル下ハ、遠近ニ隨テ、變  
違アルニハ、非ズ、其地球太陽トノ距離、太夕遠キキハ、  
二億零五百萬里アリ、是西洋ノ毎年十二月廿一日ノ  
測量ナリ、其最モ近キキハ、一億九千五百萬里ニ至ル  
是彼ノ毎年六月廿一日ノ測量ニ據ト云フ、其本輪  
地球、太陽ヲ距ル、遠近ニ依テ、四時寒暄ヲ來スニハ、非  
ズ、惟地球、太陽ニ面テ、欹側スル度ニ從テ、其光線ヲ受  
ルモ、亦多少アリ、是ヲ以テ、四時寒熱ヲ生ズ、  
地球ノ運轉スル、本輪ノ里程ヲ、測量スルキハ、一億二  
千一百五十萬、零四千二百四十里アリ、地球此遠道ヲ

一年ニ運轉シ盡シ、原路ニ回復ス、是ヲ以テ推測スル  
キハ、地球一秒時間ニ、本輪ヲ東ニ向テ、運轉スルヲ、殆  
ド三里半餘ノ遠キニ至ルベシ、其行度ノ神速ナルヲ、  
人智ノ及ブベキニ非ズ、

地球、毎年太陽ヲ一周廻轉スル外、其體中又更ニ、一箇  
ノ本心アリテ、自ラ旋轉ス、是ヲ自轉ト云フ、其本心ヲ  
廻轉シ盡スニ、二十四小時即チ我  
十二時ヲ以テス、此晝夜ヲ  
生スル所以ナリ、

地球、其本輪ヲ旋轉シテ、日夜休止スルヲ、無キヲ以テ、  
二十三度半ノ角形ヲ生ズ、是故ニ太陽北極ノ方位ニ

向テ昇騰ヲナス日、彼ノ三月廿一日ヨリ、六月廿一日  
至ルマデハ、赤道晝夜平等線ノ直北二十三度半ニ至ル、  
其翌日ヨリハ、彼ノ九月ノ廿一日ニ至テハ、再ビ舊  
ノ赤道線ニ復シ、夫ヨリ彼ノ十二月ノ廿一日マデハ、  
南極ノ方ニ向テ、循行スルヲ、二十三度半、其翌日ヨリ  
ハ、彼ノ三月廿一日ニ至リテハ、再ビ舊ノ赤道線ニ廻  
歸ス、斯ノ如ク一上一下、昇降スルヲ以テ、四時ヲ生ズ、  
赤道直下國ハ、是ヲ以テ、萬國一歲中ニ、春秋二分ノ兩  
時、候アリ、日晝夜平等ナルヲ除ク外ハ、總テ晝夜ノ時刻、長短ノ  
差ヲ生スト云フ、但赤道直下ニ丁ル諸州ハ、此例ニア

地輿圖説補 卷一  
ラズ

清濛氣 水原 河川 大海 火山 火脈

濛氣ノ生ズルヤ、其源多端ニシテ、諸般ノ氣相聚リテ、此  
一種ノ質ヲ就ス者ナリ、世人之ヲ空氣ト名ヅク、即チ清濛  
氣、今是質ヲ大別スルハ、其中含蓄スル所ノ者、四分  
ノ一ハ清氣ニシテ、其三分ハ皆窒氣ナリ、其他又僅ニ硬  
氣アリテ、二氣ノ間ニ交ハル、若シ窒氣ノミニシテ、清氣  
ナキハ、人畜一刺モ呼吸スルコト能ハズ、是故ニ二質  
相待テ、以テ動植ノ二物、繁衍スルナリ、  
窒氣ノ質タルヤ、動物ニ害アルコト、極テ偉ナリトイヘ

凡植物ノ如キハ、恒ニ此氣ヲ吸入シ、其生ヲ遂グ、且ツ  
且ニ及ンデ、太陽窒氣ヲ含ム枝葉ノ表面ヲ照スルハ、  
其中ニ含蓄スル所ノ清氣ヲ呼出ス、此氣動物ノ恒ニ  
吸入シ盡ス所ノ清氣、及ビ火燈ニ燃盡スル缺損ヲ  
補フベシ、  
清濛氣中ニ、一種ノ蒸騰氣アリ、此氣ハ水面ヨリ蒸發  
スル所ノ者ニシテ、夏月ニ當テハ、三冬ヨリモ猶多シ、其  
氣或ハ雨トナリ、百物ヲ滋潤シ、或ハ雪トナリテ、土地  
ノ沍寒ヲ防ギ、又或ハ其氣、太陽ノ照煦ニ遭ヒ、後漸ク  
冷氣ヲ見ルハ、即チ低降ス、白霧トナル、

申與國成補 卷一

太洋ヨリ、蒸騰スル所ノ氣、其騰ル、愈々高ニ至ル片  
ハ、即チ凝結メ雲トナル、或ハ其雲、海風ノ為メニ、地方  
ニ吹送ラレ、高山ノ巔ニ掛ル片ハ、即チ變メ雪トナル、  
然レモ、其掛ル處ノ地、甚タ高崇ナラズ、雪際ニ至ラ  
ザル片ハ、其雲霧山頂ヲ包纏シ、遂ニハ地面ニ喻入セ  
ラレ、川水ヲ造ルノ根源トナル、其變メ雪トナルモノ  
モ、亦地上ヨリ發スル所ノ溫暖氣及ビ、太陽ノ光輝ヲ  
見テ融解ス、其土地甚ダ高崇ニ、且ツ嶮岨ナル片ハ、  
其水直チニ飛散、噴沫トナリ、大氣ノ為メニ、放擴セラ  
レ、復タ變メ雲霧トナル、或ハ地形ニ依テハ、湍流激射

ニ、或ハ一條ノ瀑布トナリ、後チ河川ニ合シ、遂ニ大洋  
ニ歸ス、

山嶽高崇ナラザレバ、必ズ大川ヲ生ゼズト云フニモ  
非ズ、魯西亞地方、話爾泰山ノ如キハ、其山甚ダ高カラ  
ズ、有名大河四ヲ出ス、一曰大乃河、二曰亞河、三曰  
子ニール河、四曰窩爾加河、是ナリ

水ハ必ズ、地上ヲ流注スト云フニモ非ズ、又一種ノ伏  
流アリテ、彼此相通スルニアリ、譬バ北高海ノ如キハ、  
恒ニ諸般ノ大河ヲ納レ、其漏洩スル處ヲ知ラズ、是必  
ズ、海底ニ伏流アリテ、黑海ニ通ルナラン、其伏流ノ人

畜ニ極ノテ緊要ナルハ第一ニハ山鹽ノ原ヲナス、  
 翁加里亞及ビ獨逸國ノ如キハ人民皆山鹽ヲ食ニ充  
 ツ、其他亞弗利加地方等ノ如キ、海瀕ニ悠遠ナル地ハ、  
 悉ク陸鹽ヲ取テ生命ヲ保ツ、是造物主ノ人畜ヲ憐愛  
 スル一斑ヲ見ルニ足ル、  
 大洋ノ漫々タルヲ實ニ界際アルヲナシ、古人ノ諺曰、  
 地球三分ノ二ハ即チ海ナリ、是故ニ其海水ノ最モ深  
 キ所ニ至リテハ、一時半行ニモ尚過クベシ、是ノ無  
 數海族ノ死體、又ハ大河ヨリ流注スル所ノ腐壞物ヲ、  
 皆受納メ、厭ハザル所以ナリ、然レモ海水恒ニ運動ス

ルヲ無キ片ハ、其腐敗物ノ惡臭蒸發シ、清濛氣中ニ混  
 和シ、其地方ニ一種ノ傳染疫毒ノ氣ヲ生ズヘシ、是故  
 ニ造物主、諸種ノ物件ヲ造成シテ、此大害ヲ避ケシム、  
 第一ニハ、海水中ニ、鹽鹼ノ氣ヲ含蓄セシメ、諸物ノ腐  
 敗ヲ防ギ、第二ニハ、火山、第三ニハ、大風ヲ發メ、其蒸氣  
 ヲ散亂シ、或ハ大濤ヲ起メ、洋中ヲ擾亂シ、第四ニハ、潮  
 汐ヲ來メ、一日一夜中ニ、海水ヲ二度増減シ、夫ヲ以テ暫  
 時モ、靜止セザラシム、其他颶風ノ類モ、其効用少カラ  
 ズ、  
 大洋ノ浩大ナルヲ、上ニ云カ如シトイヘモ、全地上ヨ

リ、幾千萬ノ河川ヲ納レ、其漏洩スル處ナキハ、遂ニ  
ハ大ニ漲溢メ大洪水ヲ發シ、全世界ノ人畜草木ヲ一  
掃スルニ至ルベシ、是ヲ以テ造物主、一策ヲ設ケ、其水  
面ヨリ、絶ヘズ水氣ヲ蒸發セシム、夏月ハ發揚スルヲ、  
冬月ヨリモ多シ、是ヲ雨露ト為シテ、炎熱地方ニ吹送  
リ、清涼ノ氣ヲ生ゼシメ、又ハ雪トナシテ、水源ヲ貯ヘ  
遂ニ河ト為リ、復タ海ニ歸ス、是ヲ以テ、海水數千歳ヲ  
經ルトイヘ、漲溢増減スルノ患ヒナシ  
火山ハ、海中ニアル、腐敗ノ汚物ヲ掃除スルノ一具ナ  
リ、故ニ先哲、火山ヲ日月メ、汚物掃除釜ト云、何トナレバ、

海底ニ含有スル所ノ、汚穢百物ヲ、地下ノ伏道ヨリ、喻  
上ニ、是火坑ニテ、燒盡スルヲ以テナリ、其海底ニ伏道  
アリテ、火山身相互ニ、通交ヲナスト云、下ノ證ハ、火山  
ハ、多ク海水ニ近キ處ニ在ルヲ以テナリ、或ハ又、往古海  
濱ニ近キ處ニ、在ルメ、火山漸ク濱汀變メ平野トナリ、海  
水ニ遠カルヲ以テ、火坑ハ炎燄消滅メ、復タ燃ザル所  
ヲ見ルヲアリ、歐邏巴地方ニ、海濱ヲ距ル、五十里ニ  
是故ニ、地中海諸島、印度諸島ニ、火坑多シト云フ  
亞墨利加ノ、暗得大山脈中ニ、處々火坑アリ、夥シク泥  
土ヲ噴出シ、四五里ノ間ニ充壓セシトアリ、然レ、其

地、翌年ヨリハ、太ダ良沃トナルト云ヘリ、又黙時科ノ  
 火坑ヨリ、三稜ナルコトナルト等石ヲ迸射ス、其高ク空  
 中ニ迸飛スルコト、大約百六十丈餘、其一箇石ノ大サハ、  
 五男ニメ、僅ニ動搖スベシ、中ニ就テ、奇異火坑ト稱ス  
 ル者ハ、「プリ」トナキル「ラ」地部内ニアリ、此坑ヨリハ、常ニ  
 魚族ヲ出ス、或年夏月夥シク噴吐メ、其近傍諸地十里  
 内外ニ散在ス、「イ」セリ「ア」ト云フ部落ノ如キハ、其魚ノ  
 腐敗シタル臭氣ヨリメ、一種ノ傳染疫毒ノ氣ヲ發シ、  
 全部落ノ人種皆斷絶ス、此坑ハ、恐ラクハ伏道アリテ、  
 湖水又ハ川河ト連續メ、此魚族ヲ出セシナルベシ

火山ノ人畜ニ大害ヲナスコト、又僅々ナラズ、常ニ無數  
 ノ灰ヲ噴出シ、農田ヲ廢蕪ス、或ハ一種「ラ」ト稱スル  
 物ヲ出スコトアリ、其形狀ハ、石質ノ物ナレバ、其未ダ温  
 氣ヲ含ム間ハ、赤色ニメ流動シ、冷氣ヲ見ル片ハ、即チ  
 凝結メ黑色ノ石ニ變ズ、又時トメハ、火坑ヨリ「ラ」及  
 ビ灰ヲ噴出シ、其臭氣空氣ニ傳染メ人畜ヲ病シムル  
 コトアリ、其最モ夥シク噴出スル片ハ、遠近數里外ニ散  
 滿シ、遂ニ人畜壓死セラル、ニ至ル往古羅馬ノ有名ニ  
 府此災ニ係リ、皆土中ノ物トナリ、後一千六百五十年  
 ヲ經テ、再ビ其府ヲ掘出セシト云フ、然リトイヘバ、其

灰及ビ「ラ」ハ破碎メ平地トナス片ハ、反テ膏沃ノ良地トナルベシ、意太里亞國「ヘ」ニ「ト」稱スル膏沃ノ地、即チ是ナリ、是ノ如キノ類、全世界中ニ極メテ多シ、是皆其地下ニ溫氣鬱伏シ有ヲ以テ、最モ夥シク良穀ヲ産スルナリ、

火脈ハ、地下ニアルヲ以テ、其數ヲ詳ニスヘカラズトイヘ、地震ノ連感、又ハ火坑ノ位置等ヲ以テ推知スヘシ、今全世界中ニ貫通シアル所ノ火脈ヲ分ツテ九條トス、

第一大火脈、其源ヲ卧兒狼德ヨリ發シ、冰國ニ至リ、歐

邏巴及ビ亞弗利加ニ面シ、井スレテボウルボシヲ踰ヘ、フルウスチンク島ニ至ル、

第二小火脈、諾勿惹亞ノ北岸、及ビ蠟皮亞ニ始リ、歐邏巴及ビ亞細亞ヲ貫通メ、直チニ齊狼島ニ至リテ止ム、

第三ハ止白里亞、西圖伯特及ビ支那韃靼ヲ經テ、蘓門太刺ニ至リテ又發セズ、

第四大火脈、其根源ヲ加模沙都加ニ發シ、「ル」リセ諸島ヲ經テ、本邦ニ至リ、非利皮那諸島ヲ貫通メ、遂ニ新和蘭ニ至リテ止ム、

第五小火脈、其源ハ大日本ノ中州ヨリ發シ、瑪利亞



那諸島ヲ經テ、新爲匿亞ノ東岸ニ達シ、遂ニ新則蘭土ニ向テ走ル、

第六最大火脈、其源ハ米利幹ノ北西部ニ肇リ、其西岸頭ニ沿テ、把納麻地峽ヲ經、遂ニ南亞墨利加ノ「ホルン岬」ニ終ル、

第七大火脈、其源農地ニ發シ、「ラシタリ湖」及ビ「アレンチル」ニ至ル、地ヲ踰テ、聖テリスタンニ至ル

第八大火脈、卧兒狼土ヨリ發シ、「アソレス」諸島及ビ「福島」ヲ越シテ、又「聖テレスタン」ニ至ル、

第九小火脈、是ハ亞弗利加ノ西岸ニアリ、

地震 祖山 嗣山 季山 山夷

地震ノ發スルヤ、或ハ山國ニ發スルコトアリトイヘド、多クハ火山ノ近傍諸州ニアリ、其起原ノ理會ヲ詳ニセシ、甚ダ難シ、然レモ、窮理家ノ說ニ曰、地震ノ發スルハ、先ヅ地下ノ伏道即チ火脈ニアル水素、鬱伏メ熱灼ノ氣ヲ生スルヲ以テ、常ニ大氣ヲ得テ發燄セシトス、此時ニ丁テ、大氣透入スル所ハ、直チニ炎燄トナル、然レモ、其上ニ大地アルヲ以テ、其抗力ヲ逞スルコト能ハズ、是ヲ以テ、遂ニ其近地ニ地震ヲ發ス、但其火脈ノ大小ト、大氣ノ多少トニ從テ、震搖ノ輕重アリ、又或ハ、其火

道海底ニ通ズル氏ハ、大ニ海嘯ヲ發スルヲアリ、一説  
 二曰、伏道中、天然ニ硝石、硫黃、炭等ノ氣ヲ生シ、鬱伏燦  
 灼スル所へ、清氣透入スレハ、即チ一種ノ礮勢ヲ發ス、  
 大ニ土地ヲ震搖スト云フ、西洋紀元一千七百五十五年丁リテ、波爾杜瓦爾國ニ大地震アリ、闔都ヲ顛覆ス、人民土中ニ埋死セラルル者二萬人、此地震ハ、臥兒狼德ヨリ起リ、此府ヲ震搖シ、亞弗利加ニ達スト云、火脈ノ説ニ參考ス、ベシ、  
 祖山、古語ニ曰、地球ハ、其往古ハ、海水ノ為メニ埋覆ヤ  
 ラレタリ、夫ヨリメ久シク年所ヲ經、一丘山巔ヲ顯出  
 ス、是ヲ祖山ト名ツク、中ニ就テ二種ニ分ツ、然レモ兩  
 種共ニ其地ニ獸畜ノ遺骨ナシ、

嗣山ハ、祖山ノ後ニ顯出スルモノナリ、其地ニ方今見  
 ガル所ノ海獸ノ遺骨ヲ見ル、或ハ諸種ノ殼甲アル獸  
 骨ヲ見ルトアリ、其山巔ハ圓形ニメ空陷ハ洞穴アリ、  
 其土地ハ皆諸種石質ノ物ニ係ル、今嗣山ヲ八級ニ分  
 ツ、其地異ナリ、其地ハ皆諸種石質ノ物ニ係ル、今嗣山ヲ八級ニ分  
 其一、古山ノ巔ハ悉ク沙石ナリ、其二、石灰ヲ含ム所ノ  
 土地ナリ、其地ニ於テ偉形ノ獸骨ヲ見ル、時トメハ、蜥  
 蜴ノ大サ、方今ノ鰐魚ニ増ル者アリ、其三、ギブス山ト  
 名ツク、其山多ク浩大ナル陷空ノ處アリ、其空處ニ於  
 テ「ド」ロウフ石ノ位置ヨク重疊スルヲ見、又時トメハ

其四壁皆寶石ニメ、其上ヨリ常ニ水液點滴ヲナシ、其聲四壁ニ響キ、絲竹ノ音ヲナスモノアリ、其景況殆ド仙境ニ至ルカト疑フ、其四ヲ鹽山ト名ツク、波羅泥亞、翁加里亞國本篇各國條下ヲ看ノ如キハ最モ多シ、其地天然ニ鹽卓、鹽皿、鹽釜、及ビ諸種ノ器什ヲ出ス、恰カモ土中ニ鹽市アリテ、此異物ヲ造成シ出ス者ノ如シ、其五結麗土山、佛蘭西及ビ英吉利國ニ多シ、其六、石炭山ニメ、其地ニ林木ノ化成シタル者アリ、是品ハ即チ洪水前世界ノ遺物ナラント云、其七、ガラメイ石山、其八、ハサルト山、此山ハハサルト石重疊積堆メアルヲ以テ

此稱謂アリ、恐クハ火山ノ噴口ヨリメ、此石ヲ吐出シ、積テ一箇ノ山阜トナリタルナラン、其景色意表ニ出ル、人間界ニ見ルベカラザル者多シ、或ハ其地ニ天然ノ大都府、又ハ政廳等ノ形ヲ顯出スル、アリ、思哥齊亞近傍ス、多ビ「ヒンガル洞、及ビ意而蘭土ノ」空ク洞ノ如キ是ニ同ジ、季山、是ハ大洪水後ノ物ニメ、即チ高山ヨリ大洋ニ河水ヲ流出スル片、其水ニ沙土ヲ交ヘテ此ヲ海濱ニ輸リ、後チ年所ヲ經、漸ク增長メ、一阜洲ヲ為ス、亞弗利加大沙海ノ如キ是ナリ、其地ニ偉獸骨、又ハ「ムモウト

獸甲獸骸ヲ出シ、或ハ草木五穀ヲ養フベキ一種ノ土  
 ヲ産ス、寬按、泥祿川、洪水アル片ハ、五穀實ル、平年ニ倍スト云フ者ハ、即チ是等ノ土ヲ云ニ似タリ、  
 其他土中ニ諸種ヲ含蓄シタル鑛金ヲ生ズ、則チ黃金  
 白銀、水銀、銅、鐵、錫、鉛、又ハ半金半石ノ物ヲ出ス、此等ヲ  
 出ス處ノ地一トラズ、或ハ地ヲ掘ル、僅ニノ鑛金ヲ  
 見ルモアリ、又至深ニ至ラザレバ得ザルモアリ、或ハ  
 山阜ニテ見ル、或ハ金銀及ビ鐵等ノ凝塊ヲ得  
 ル、一アリ、又ハ鑛金ヲ得、是ヲ醇正トナサンガ為メニ、  
 莫大ノ金錢ヲ費メ、反テ損亡ヲ為ス、一モアリ、  
 凡ソ山ノ種類ハ、祖山、嗣山、季山ノ三種ニ過ギズトイ

ヘ、凡其山ノ形狀ヲ以テ云フ、片ハ三種ヲ又三等ニ分  
 ツベシ、一ハ山脈、一名山脊ナリ、二ハ山夷、是山脚ニ在  
 ル諸州ニメ、半ハ山脈ニ連リ、半ハ平地ナルヲ云フ、是  
 班牙、ゴツベツトノキシコ西藏、ゴツベツトノキシコ黔時科等ノ如キ、即チ是ナリ、其各州皆海面  
 ヲリ高キ、一六七千尺、祈多國、南亞墨利加洲、白露ノ部  
ニ參考ノ如キハ、其平地ト稱スル地モ、尚九千尺ニ下  
ラズ、三ハ高山ナリ、意貌、暗得、牙爾白ノ如キ、即チ是ナ  
 リ、其他海ト陸トノ間ニ位スル處ヲ岬濱ト云フ、然レ  
 凡其地形ニ從テ高低一ナラズ、大英國ノ海岸ハ、皆結  
 麗土ニメ、其高キト仰キ見ルヘシ、是レ海舶ヲ寄スベ

カラザル所以ナリ

土地ノ寒暄ハ、天度ニ依テ然リトイヘ、其地形ニ依テ異同ナキニ非ズ、大約北亞墨利加ノ地ハ、歐邏巴洲ト同帶ニメ、寒氣ノ酷烈ナルヲ恰モ十度ノ差アリ、又赫爾勿婁亞國ノ如キ、土地高崇ナル所ハ、氣候酷寒、殆ド卧兒狼德ノ如シ、然レ其平夷ナル地ハ、氣候溫和ナルヲ、意太里亞ニ殊ナルヲナシ、

雪山 大沙海 風島

雪山ノ要用タル極テ大ナリ、先ヅ旱魃ノ歲ニ至レハ、山上ノ湖水枯死シ、又雨露ノ滋潤ニ乏シク、遂ニ其

地方ハ饑餓ヲ患フ、是ヲ以テ造物主別ニ冰山雪山ヲ貯ヘ置テ、其害ヲ防ク、其冰野ト稱スル者ハ、宿雪ノ凝結シタル物ニメ、其地、雪際以上ニ届ク所ハ、宿冰終夏消セズ、故ニ萬古ニ亘リテ消化スルヲナシ、但其雪際ト稱スル所、天度ニ依リテ一ナラズ、大約兩寒帶下ノ國ハ、平地トイヘ、四時雪アリ、兩中帶下四十五六度ノ地、即チ牙爾白山ノ如キハ、九千尺ニメ、雪際タリ、兩寒帶下ハ、一萬四千六百四十尺ニメ、僅ニ雪際ニ至此、大沙海ノ源ハ、亞弗利加洲ヨリ發シ、東ニ走り、殆ト支那ノ境界ニ至ル、中ニ就テ最大ナル者ハ、沙拉ノ沙海

ナリ、其廣袤、北緯十五度ヨリ三十度ニ亘リ、其平面殆  
ト歐邏巴半洲ニ比スベシ、是ノ如ク廣漠ナルヲ以テ、  
東風ノ吹ク毎ニ、過多ノ砂石ヲ其近海ニ吹送り、海底  
漸ク淺水トナリ、其岸頭ノ如キハ、遂ニ變ノ大沙地ト  
ナル、其白砂上ニ、太陽ノ光線返射メ、熱灼手足ヲ焦燬  
スルニ至ル、是其地ニ絶テ物類ヲ生植セズ、又流水皆  
伏スル所以ナリ、

亞弗利加洲ノ大沙海中處々ニ良地星散シ有ル、尚  
大洋中ニ島嶼アルガ如シ、土人之ヲ「アセ」ト云、隊  
伍商ノ如キモ、大沙漠ヲ通行スルノ間、恒ニ其地ニ至

リテ休息シ、又旅裝ヲ繕フ、若シ沙海中ニ斯ノ如キ所  
ナキハ、人跡殆ト稀ナルベシ、然レ厄斯ノ如キノ地  
ハ、西部ニハ有ラス、惟東部ノミニアリ、其數大小三  
十二所、中ニ就テ二十八ハ住人アリ、弗沙ノ如キ、即チ  
其一ナリ、但沙漠ハ、漸々ニ増衍スル者ノ如シ、  
泥祿川厄エ多國日ダノ西部ニ小沙阜アリ、風ニ從テ流動スヘ  
シ、之ヲ遠望スル片ハ、其景況畫圖ニ殊ナルヲナシ、又  
沙漠中ニ一種紫色ノ重霧アリ、其中ニ毒氣ヲ含ム、之  
ヲ「サ」ト云、防寇隊商其氣ヲ見ルハ、大聲呼テ曰、  
窒風來レリ、其聲ト共ニ、衆人皆地ニ伏ス、其擣フ所ノ

駱駝モ亦此事ヲ知テ、皆頭ヲ沙中ニ埋ム、其氣ノ流通  
シ過ルマテハ、人畜共ニ呼吸ヲナスコトナシ、然レモ其  
窒氣太ク敏捷ニメ避クヘカラサル片ハ、一瞬時間ニ  
即死シ、空シク白骨ヲ止ムルコトアリ、或ハ又沙海中ニ  
於テ、遙ニ湖水草木村落等ヲ遠望スルコトアリ、行旅輩  
急ニ其地ニ就テ、飲食ヲ得ント欲シ、其近ニ至ル片ハ、  
俄然トシテ其影又他所ニ移ル、土人之ヲ逃市ト云、即チ海市  
類ナリ、此等ハ皆太陽ノ光線、沙上ニ返射メ、斯ノ如キ  
物影ヲ顯出スルナリ、  
亞刺比亞ノ沙漠モ亦沙拉ノ砂脈ニ係ルト云フ、此地

砂中ニモ、處々鹽井又綠野アリテ、草木茂生スルヲ  
見ル、惟百爾西亞灣ニ近ク、片ハ暑氣酷烈、百物皆育  
セズ、古昔歷山王ノ軍卒、克チニ乘シ、長驅メ此ニ至リ、  
シカモ遂ニ進ムベカラズメ、歸陣セシヲ以テ、其惡地  
ヲ推知スベシ、此砂脈安日河ニ至テ斷絶シ、其北部ニ  
至リテ復タ發ス、之ヲ「ゴビ」一名翰海ト云、  
沙海ニ依テ良土ヲ廢蕪シ、遂ニ無人ノ境トナル地、處  
々ニアリ、然レモ砂海ノ人畜草木ノ爲メニ要用タル  
モ亦少ナカラズ、第一砂海ヲ超テ來ル所ノ風ハ、酷烈  
ナルヲ以テ雪山ノ宿雪ヲ融解シ、水源ヲ為シ、遂ニ土

地ヲ滋潤ナラシム、其證ハ沙海ノ形勢ト雪山ノ位置  
相對峙スルヲ以テ推知スベシ、第一北勒搦何山及ビ  
牙爾白山ニ對メ沙拉アリ、タウラス山ニ對メ、三ビ  
砂アリ、加烏葛須山ニ對メ、百爾西亞ノ沙アリ、意貌山  
ニ對メ、印度沙アリ、滿州蒙古ノ雪山ニ對メ、翰海アリ、  
故ニ雪山ト沙海ノ地形ハ總テ相對峙スル者ナリ、米  
利幹地方大山脈ノ連續ハ、古半球亞細亞歐羅巴ノ地  
ト同ジカラズ、故ニ東西ニ走ラズメ、南北ニ走り、國ノ  
東部ニ在ズメ、西部ニ在リ、其理徒為ニ非ズ、大約熱帶  
地方ニテハ、方位一定ノ風アリ、東ヨリ西ニ吹ク、是ヲ

以テ、亞弗利加ノ沙海ヨリ、熱灼ク氣ヲ受ケタル烈風、  
直チニ西ニ向テ飜飛シ、暗得大山脈ニ至リテ、宿雪ヲ  
融解シ、世界第一第一ノ洪河ヲ造成シ、大ニ其地ヲ滋  
潤豐沃ナラシム、亞瑪鑽銀河即チ是ナリ、本篇本土條ニ參考スベシ、  
其山脈西部ニ在ル所以ハ、若シ東部ニアルハ、此  
一大州皆山陰トナリ、且ツ宿雪ヲ融解シ、大河ヲ造ル  
モ、此州ノ補益トナルトナシ、其地形ヲ知ラント欲セ  
ハ、輿地圖ニ參考スベシ、  
風トハ、空氣ノ流動スルヲ云フナリ、其効用亦少ナカ  
ラズ、或ハ寒熱ヲ混和シ、又ハ火山及ビ汚水ヨリ出ス



所ノ惡臭ヲ新鮮ニス、今風ヲ大別ノ二トス、一ヲ變化  
風ト云ヒ、一ヲ定向風ト云フ、其定向風ニ屬シタルハ  
スサート風ハ、回歸線ノ中間ニ在ル邦土ニテハ、絶へ  
ズ東、又ハ北東、南東ノ方位ヨリ吹ナリ、其變化風ハ、夏  
月ハ海上ヨリ陸地ニ吹キ來シテ、熱地方ヲ冷涼ニス、  
三冬ノ節ニ至テハ、地方太ダ寒烈ナルヲ以テ、卻テ陸  
地ヨリ海上ノ空氣ニ交替スト云、  
廻歸線間ノ邦土、就中印度海ニ於テハ、一種定向ノ風  
アリ、之ヲ「モウソント」名ヅク、此風彼ノ四月ヨリ九月  
ニ至ルマデハ、西及ビ南西ヨリ東、及ビ東北ノ方ニ吹

キ、十月ヨリ三月マデハ、是ニ反シタル方向ニ吹キ來  
ル、此風順ハ、航海客一日モ知ザルベカラザル、第一  
タリ、是理ヲ以テ往古鍼盤、及ビ航海術ノ測器、未タ世  
ニ知レサルニ先ツテ、羅馬人南西ノ風順ヲ待テ、印度  
地方ニ通商シ、北東ノ風順ヲ待テ歸帆スト云、  
島嶼ノ要用タルト、亦太夕偉ナリトス、若シ大洋中ニ、  
島嶼ナキ片ハ、波濤ノ猛威增長シ、加之、舟楫者地方ニ  
依テ此難ヲ避ケントスルモ、空茫無際ニテ、遂ニハ魚  
腹ニ葬レンノミ、是ヲ以テ、印度海ニアル馬爾地歇私  
諸島近傍ニ至テハ、舟楫者安穩高枕ノ通過スト云、何

トナレバ、此海ハ一萬二千餘ノ島嶼散落シアルヲ以テ、其颶風大浪ニ隨テ、彼此ニ危難ヲ避クヘシ、島嶼港外ニ在ル片ハ、嶽内總テ平穩ナリ、是故ニ世ニ好嶽脚ト稱セラル、港外ニハ大約二三ノ島嶼アリ、若シ港外ニ島嶼ナキ片ハ、水流激射シ、直ニ大洋ニ注入スベシ、斯ノ如キ地ハ、大風海嘯等ノ片ニ丁リテハ、風浪逆上シ來テ、港内ノ鷄犬ヲ一掃スルヲアリ、舟楫者宜シク注意スベシ、其他港外ニ數島嶼アル片ハ、何ノ方向ノ風ヲ問ハス、皆揚帆シ去ルベシ、島嶼ハ海舶ノ爲メニ、必用缺クベカラサルノ一タリ、

若大洋中ニ地方ナキ片ハ、薪水蔬菜ヲ求ムヘカラズ、又島嶼ナキ片ハ世界中ニ於テ產物ヲ減少スルト少トセズ、何トナレバ、島嶼ハ至小トイヘ、物産ノ多キト大陸ノ比倫ニ非ズ、又寒暄氣候ノ差、大陸ノ如ク甚ダシカラズ、是ヲ以テ人烟稠密シ、百菓皆生ゼザル者ナシ、其證ハ、印度諸島ヲ以テ推知スヘシ、  
高山

世界第一ノ最高峰ト稱スルハ、即チ圖伯特國ノヒンマライ山、古名ヒマン、漢譯一名雪庫山ニ如クハナシ、其山ノ形狀ハ、直立嶮峻、空中ニ聳ヘ、其巔ニハ、天地開

關以來ノ宿雪アリ、西洋人此山ヲ測量セサル前ハ、皆  
 暗得<sup>アツク</sup>ヲ以テ、天下ノ最高處トセシト云、測量家ノ記載  
 ニ曰、凡ソ山ヲ測ルニ、其地海上ヨリ高キ一、一萬六千  
 尺ニ至ル片ハ鼻孔及ビ脣皮ヨリ、鮮血迸出スベシ、愈  
 く躋リテ、二萬二千尺ニ至ル片ハ、呼吸窒塞メ、歩ヲ進  
 ムヘカラズ、又測器ノ水銀凝固メ、昇降セサルニ至ル  
 是レ皆空氣輕粗ナルヲ以テ然リト云、又意貌山ノ如  
 キハ、雪際以下ハ、大松樹ヲ繁茂ス、其幹高サ百八十尺  
 其樹ノ幅二十四尺、櫟木ノ如キモ、高サ六十尺、幅七尺  
 アリト云、其以下ハ、雜樹ヲ生ズトイヘ、凡、皆短少ニメ

地理圖說 卷一

夢野樵菴

歐邏巴産ニ殊ナルヲナシ、  
 世界高山比表

亞細亞洲

ドハラギール峰 意貌山脈 二萬六千四百六十二尺  
 井ハヘル峰 意貌山脈 二萬五千七百四十九尺  
 ペトカ峰一名ハマル山 支那 二萬一千尺

亞墨利加洲

シンボネソ峰 暗得山脈 二萬一千四百六十四尺  
 アンチサナ峰 同火山 一萬九千一百三十四尺  
 コトハシール峰 同火山 一萬八千八百零七十七尺

申與司茂甫 卷一

夢野樵菴

亞弗利加洲

亞<sup>ア</sup>毘<sup>ビ</sup>沁<sup>シ</sup>域<sup>ク</sup>山一名月山 一萬五千零五十尺

ヒ<sup>ビ</sup>ー<sup>キ</sup>山 福島引子リ 一萬二千三百五十八尺

亞<sup>ア</sup>太<sup>タ</sup>臘<sup>ラ</sup>山 一萬二千尺

歐邏巴洲

モン<sup>ト</sup>ブ<sup>ラ</sup>ン<sup>コ</sup>山 牙爾白山脈 一萬五千七百三十五尺

モン<sup>ト</sup>ロ<sup>サ</sup>山 同 一萬五千六百尺

ラル<sup>ト</sup>レス<sup>山</sup> 一萬五千三百六十四尺

紐<sup>ニ</sup>宛<sup>ウ</sup>韻<sup>ン</sup>府<sup>フ</sup>東<sup>トウ</sup>印<sup>イン</sup>度<sup>ト</sup>ノ條<sup>ニ</sup>意<sup>イ</sup>貌<sup>ボ</sup>山<sup>ノ</sup>記<sup>キ</sup>載<sup>サイ</sup>アリ上<sup>ニ</sup>舉<sup>ル</sup>ル所<sup>ノ</sup>比<sup>ヒ</sup>例<sup>ニ</sup>同<sup>ジ</sup>カ<sup>ラ</sup>ズ故<sup>ニ</sup>今<sup>ニ</sup>附<sup>ル</sup>録<sup>ス</sup>後<sup>ノ</sup>考<sup>證</sup>ニ備

フ其記<sup>ニ</sup>曰<sup>ク</sup>意<sup>イ</sup>貌<sup>ボ</sup>山<sup>ノ</sup>支<sup>シ</sup>派<sup>ニ</sup>「<sup>ニ</sup>五<sup>ス</sup>夕<sup>ヲ</sup>山<sup>ト</sup>名<sup>ツ</sup>ク<sup>ル</sup>

峰<sup>アリ</sup>英<sup>イ</sup>吉<sup>キ</sup>利<sup>リ</sup>加<sup>カ</sup>比<sup>ビ</sup>丹<sup>ダン</sup>空<sup>ソ</sup>以<sup>テ</sup>ノ說<sup>ニ</sup>曰<sup>ク</sup>其<sup>ノ</sup>巔<sup>ハ</sup>海<sup>面</sup>ヨ

リ高<sup>キ</sup>一<sup>ニ</sup>萬<sup>八</sup>千<sup>尺</sup>暗<sup>得</sup>山<sup>ノ</sup>シ<sup>ン</sup>ボ<sup>ヲ</sup>峰<sup>ヨ</sup>リ高

キ<sup>ト</sup>殆<sup>ド</sup>八<sup>千</sup>尺然<sup>レ</sup>此<sup>ノ</sup>山<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>意<sup>イ</sup>貌<sup>ボ</sup>山<sup>ノ</sup>最<sup>高</sup>處

ト云<sup>フ</sup>ニ非<sup>ズ</sup>其<sup>ト</sup>ハ<sup>ラ</sup>ギ<sup>ル</sup>山<sup>ト</sup>稱<sup>ス</sup>ル<sup>峰</sup>ハ此<sup>ノ</sup>頂

ヨリ遠<sup>望</sup>スルニ尚<sup>高</sup>ク雲<sup>間</sup>ニ聳<sup>フ</sup>ト云

寒國

卧<sup>グ</sup>兒<sup>レ</sup>狼<sup>ウ</sup>德<sup>ト</sup>ノ内<sup>地</sup>ハ氣<sup>候</sup>酷<sup>寒</sup>冬<sup>月</sup>ノ如<sup>キ</sup>ハ火<sup>酒</sup>水<sup>銀</sup>

共<sup>ニ</sup>凍<sup>結</sup>メ流<sup>動</sup>セザ<sup>ル</sup>ニ至<sup>ル</sup>是<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>土<sup>人</sup>モ<sup>ス</sup>種

本<sup>篇</sup>ニ參<sup>シ</sup>恒<sup>ニ</sup>穴<sup>居</sup>シ其<sup>上</sup>ニ玻<sup>璃</sup>板<sup>ヲ</sup>帖<sup>メ</sup>太<sup>陽</sup>ノ光

輝ヲ取ル然レモ隆寒ノ時ニ至リテハ寒氣膚ヲ裂キ  
 血液ノ運行歇息センコトヲ恐レ其穴口ヲ閉チ内ニテ  
 木片及ビ魚骨ヲ燒キテ暖烟ヲ室内ニ滿タシメ凍沍  
 ヲ防グト云西洋人此地ノ寒氣ヲ測驗セシニ驗温氣  
 管凍點下四十八度若シクハ五十度ニ至ル又此地ノ  
 西方冰海中ニ尖山ト云地アリ其地ノ氣候亦此地ニ  
 髣髴タリ但冬月太陽ノ光線ヲ受クルコトハ較此地ニ  
 勝ルト云然レモ氣候酷寒ナルコトハ彼此甲乙ヲ評シ  
 易カラズ其證ハ尖山ニ住ム白熊狐狸ノ如キモ隆寒  
 ノ時ハ互死センコトヲ恐レ此州ノ南部曰ドソンス港

地理圖説  
 卷一

寒氣

二避々來ルヲ以テナリ

熱國

全世界中ニ於テ極メテ酷熱ノ地ト稱スル地ハ亞弗  
 利加ノ大沙海ニ如クハナシ然レモ其地方ハ水草無  
 キヲ以テ人畜栖止スベカラズ又熱度ヲ驗測スルコ  
 能ハズ其海濱ノ地トイヘモ夏月ニ至レバ太陽白砂  
 ニ返射メ焮熱近クベカラズ西人試ミニ鷄卵ヲ取テ  
 熱砂中ニ投ズルコトハ皆其液凝固ノ熱湯中ニテ煎烹  
 セシモノニ殊ナルコトナシ今人畜栖止シ草木茂生ス  
 ル所ハ熱地ヲ云フモ東印度地方ニ如クハナシ中

申與圖説補

三三

寒氣

ニ就テ前印度ノ内部ニ止里ト稱スル地アリ其熱灼  
 甚シキヲ驗温器ニテ測ルニ一百十三度ニ騰ルト  
 云寛按本邦ノ如キハ三伏ノ暑トイテ土人其熱ヲ苦  
 ハテ太約九十三四度ヲ以テ極トス土人其熱ヲ苦  
 ミ相為ノニ語ノ曰此地ノ外世ニ炎熱地獄ナルベ  
 シ然レモ此地ノ晝夜ハ太約平等ナルヲ以テ日中ノ  
 熱氣夜間ニ至レバ消盡ノ翌日ニ殘ルヲナク又河湖  
 ヲリ騰氣ヲ發スルヲ多キヲ以テ天氣常ニ濛々能ク  
 大雨ヲ來スト云

坤輿圖識補卷一終

長門 田原綱尚郷校本

